

TAC・Wセミナー 2024・2025年度合格目標

国家総合職内定者アドバイザーホームルーム

第2回『国家総合職合格への道～皇天親無く惟徳を是輔く～』

11月27日(月) オンライン・11月29日(火) 新宿校



【本日の予定】

1. LAの自己紹介
2. LAの官庁訪問対策
3. 官庁訪問のいろは
4. 各試験区分の勉強法
5. 前回いただいた質問への回答
6. 今後の告知

無断複製(コピー等)・無断転載等を禁じます。

【HRとは】

HRとは、私たち国家総合職内定者アドバイザー(LA)が、皆さんの勉強と官庁訪問対策をサポートする機会です。それぞれの時期にあった内容で、計6回のHRを用意しています。

基本的に月に1回のペースで新宿校とオンラインにて開催する予定です。それぞれの時期にLAが就活生だった時期に不安に思っていたことや、欲しかった情報などを、徹底的に分かりやすくお伝えしたいと思っています。

途中入場・退出は自由です。日ごろの勉強の息抜きに、小さな悩みを解消するために、内定者しか知らない話を聞きに、勉強仲間を見つけに、ぜひお気軽にご参加ください！

カウンセリング等でLAに寄せられた質問やその回答については、個人情報が出ない形で、その都度このHRで皆さんと共有したいと考えています。

【今後の予定】

第3回HR

「国家総合職合格への道～We are never alone～」

内容: 模試の活用法、民間就活・併願、年末年始の過ごし方

12/13(水) 16:30～17:30 新宿校

12/15(金) 18:30～19:30 オンライン

第4回HR

「国家総合職合格への道～？？？～」

内容: 省庁研究のアドバイス・記述対策と模試活用法(仮)

1/19(金) 18:30～19:30 オンライン

1/24(水) 16:30～17:30 新宿校

第5回HR

「国家総合職合格への道～？？？～」

内容: 官庁訪問の噂と真実・志望動機カウンセリング(仮)

2/9(金) 18:30～19:30 オンライン

2/14(水) 16:30～17:30 新宿校

第6回HR

「国家総合職合格への道～？？？～」

内容: 官庁訪問対策・二次試験に向けた直前準備(仮)

3/21(木) 16:30～17:30 新宿校

3/26(火) 18:30～19:30 オンライン

(日程・校舎にご注意ください)

【LAの自己紹介】

曾山 稔理

内閣府/慶應義塾大学法学部法律学科/法律区分

【併願先】厚生労働省、衆議院事務局総合職、
参議院法制局総合職、東京都庁、国家一般職、
(横浜市役所、裁判所事務官)

【訪問先】内閣府、厚生労働省

【講座】法律本科生

【専攻】刑法

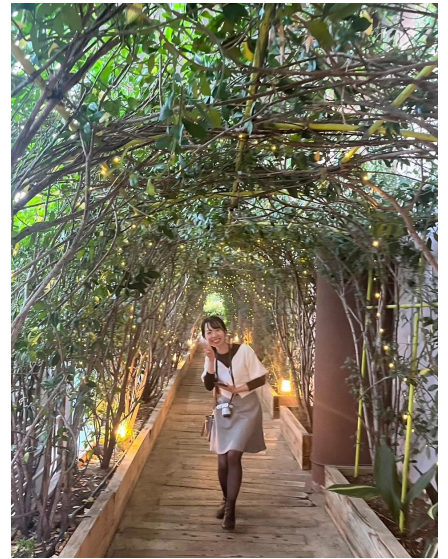
【得意科目】憲法、行政法

【苦手科目】民法、専門記述

【しておいて良かったこと】省庁説明会への参加、官庁訪問自主ゼミへの参加、TAC内定者ホームルームへの参加

【マイブーム】Googleカレンダー(デジタルの便利さに気づきました)

【メッセージ】試験や官庁訪問など、長い道のりですが、一緒に頑張っていきましょう！
また、国総をはじめとして色々な公務員試験を受けたので、その体験談も話せるかと思います。
気になる方はお気軽にご相談ください！



北 圭佑

デジタル庁/横浜国立大学経済学部経済学科/経済区分

【併願先】人事院

【訪問先】デジタル庁・人事院

【講座】経済本科生

【専攻】財政学

【得意科目】数的処理、経済原論

【苦手科目】社会科学

【しておいてよかったこと】説明会に積極的に参加すること、官庁訪問
自主ゼミ、ランニング

【マイブーム】物件探し、ホストのドキュメンタリー鑑賞

【メッセージ】経済区分のことなら何でも聞いてください！

個人的にデジタル庁の雰囲気が他省庁と比べてかなり自由であることをお伝えしたいです。
質問や相談何でも気軽にどうぞ！！



高崎 萌寧

外務省/早稲田大学法学部/政治・国際区分

【併願先】農林水産省、民間(コンサル)

【訪問先】外務省、農林水産省

【講座】政治・国際本科生

【専攻】民事訴訟法

【得意科目】文章理解、数的処理、国際法(?)

【苦手科目】政治学・国際関係

【しておいて良かったこと】

TACカウンセリング、省庁イベント参加(双方向コミュニケーション可能なもの)、民間就活

【マイブーム】ブロックブラスト(テトリス的なゲーム)

【メッセージ】

政治学や国際関係についての知識がゼロの状態から3.4か月程度勉強し、政治・国際区分で受験をしたので、勉強計画や方法についての経験について色々話せるかと思います！

民間就活との両立についてでも何でもお気軽にご相談ください！



吉田 統磨

外務省/早稲田大学法学部/政治・国際区分

【併願先】経済産業省、民間(WEB広告、総合商社、JAXA等)

【訪問先】外務省、経済産業省

【講座】政治・国際本科生

【専攻】国際法

【得意科目】政治学、国際関係、憲法、国際法

【苦手科目】数的処理、自然科学

【しておいて良かったこと】

①採用担当との個別面談・イベントの参加

②自己分析(ほぼ毎日)と面接練習(週4)

③民間就活:自分が本当にしたいこと、自己分析の前倒し

【マイブーム】筋トレ、美術鑑賞、歴史の学び直し

【メッセージ】

試験対策をしている間、不安で眠れない日もあれば、解ける問題が増えて嬉しい日もあります。



あまり気負いすぎる必要はありませんが、就活が終わった際に「やりきった」と思えるよう、一日一日を大切に過ごしていただければと思います。

高田 萌奈

農林水産省/東京外国語大学言語文化学部/教養区分

【併願先】国土交通省、民間企業(金融)

【訪問先】農林水産省、国土交通省

【講座】1.5年法律本科生

【専攻】イタリア

【得意科目】文章理解、官庁訪問

【苦手科目】数的処理、企画提案

【しておいてよかったこと】省庁イベントへの積極的な参加、内定者カウンセリング

【マイブーム】アンテナショップめぐり

【メッセージ】

この時期、官庁訪問に対して漠然とした不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。皆さんのもやもやを解消できるよう、自分自身の経験も交えながら、全力でサポートさせていただきます！

1対1で内定者カウンセリングも行っておりますので、ぜひお申込みください！



【LAの官庁訪問対策】

曾山(内閣府)

小さい頃から人のために何かをすることが好きだった。利益を追求せず、真に国民、国のことを考えて仕事ができる公務員を、高校生のころから漠然と意識し始める。



大学2年生の冬に進路を悩んだ結果、自分が生きてきた環境が当たり前ではないことを感じ、今までに付けた力を社会に還元できるような仕事に就きたいと考えるように。
具体的な分野は決まっていなかったが、国家公務員を志す。



大学3年時に始めたボランティアで、子どもの貧困に関心を持ち始める。子どもの貧困を担当していたのが内閣府と厚労省だったので、両府省に興味を持つ。



貧困に限らず、自分の力でどうすることもできない要素によって何かを諦めたりすることがない社会を実現したいと考えるように。



内閣府において、子ども、防災、男女共同参画、ジェンダーなどの分野に取り組むことで、理想とする社会に近づけるのではないかな。



内閣府、厚労省を志望するように。(訪問はしていないが、同じような視点から法務省も考えていた。)

-
- ・良かった点: 社会のために働きたいという軸はずっとブレなかったこと。
 - ・反省点: 国家公務員を志し始めたときは、まだ分野が定まっていなかったため、志望省庁を決めるまで時間がかかったこと。
 - ・工夫した点: 説明会、興味ある分野の政策研究、官庁訪問中のメモを一つのノートにまとめたこと。

	内閣府	厚生労働省
1月	説明会×2回	説明会×1回
2月	説明会×2回 少人数懇談会×1回	説明会×2回 職場訪問×1回
3月	霞が関OPENゼミ 説明会×5回	霞が関OPENゼミ 説明会×1回

	内閣府	厚生労働省
4月	少人数懇談会×1回 説明会×3回	説明会×2回
5月	説明会×3回	説明会×4回
6月	説明会×2回 官庁訪問	官庁訪問

北(デジタル庁)

祖父からの国家公務員になることのすすめ、そして漠然と万人の役に立ちたいという思いから国家公務員をめざすことにする



地方出身ということもあって、地方の衰退に懸念を抱き、地方創生にかかわりたいという意識を持ち総務省や国交省に興味を持つ



説明会に沢山参加しているうちに自分が公務員としてやりたいことに違和感を覚え、就活の軸を考え直す



周りの優秀な国総志望者やゼミの研究の一環で自治体で実際に働く人を見て、この人たちがもっと働きやすい環境で政策をより打ちやすい環境を創りたい！と考える



漠然と興味があったIT分野でかつ、地方創生に貢献できる上に公務員の働き方にもメスを入れられるデジタル庁を志すようになる

・良かった点

- ①省庁をたくさんみたので省庁同士の比較がしやすく、志望動機も書きやすかった。
- ②参加後に感想・学び・疑問をまとめた。(政策研究&官庁訪問のネタにもなる)
- ③息抜きをしっかりとしていたため民間内定組がうらやましいと感じることはなかった。

・反省点

- ①スタートが遅れた
- ②自分だけで悩むのではなく、カウンセリングをもっと利用すればよかった。
- ③大学のテスト等他のスケジュールも考えて、択一の勉強と説明会に参加をもっと余裕を持って両立するべきだった。

	デジタル庁	人事院	内閣府(辞退)
1月			説明会×1
2月	説明会×1	座談会×1、	説明会×1
3月	説明会×1、面談×1	座談会×1、	説明会×3
4月	説明会×3、	説明会×2、	説明会×3

	デジタル庁	人事院	内閣府(辞退)
5月	説明会×3、面談×1 座談会×1、	説明会×2	説明会×3
6月	官庁訪問	官庁訪問	悩んだ末に官庁訪問時の体力 を考慮して辞退

吉田(外務省)

故郷の東北を舞台とするミュージカル「アテルイ」で蝦夷の頭領アテルイ役を務める。
大切な家族・仲間や故郷を守るため戦った先祖のおかげで今があると思うなどする
また、大切なものを守るためには外部との良好な関係構築が不可欠と思うなどする(中学)

↓
「永遠のゼロ」を読み、大切な家族や故郷守ることに
命をかける人生にやはり惹かれる
⇒国総を視野に入れた大学選び(浪人期)

↓
国際法の弁論大会で外務大臣賞や全国最優秀賞をとったことで
自分の言語化能力は武器だと気づく(大学2年)

↓
経済や安全保障をはじめ、様々な観点から
日本・国民を支えていける点や、国際法の知識が活かせる点、そして
武力でも経済力でもなく「言葉」で相手の心を動かせる点に惹かれ、
外交官として生きていく覚悟を決める(大学3年)

↓
自分の強みや、広い関心分野とマッチしている外務省
国民生活に最も身近な「経済」を軸に、攻めと守りを展開する経産省
以上2省に絞り官庁訪問へ

・良かった点

- ①目的意識をもってインターンに参加したこと。できるだけ多くの省員と会話することで、組織の雰囲気、省員との相性などを確かめた。
- ②自分の関心分野や志望動機について、人事担当者との個別面談で積極的に壁打ち。様々な分野の省員さんを紹介していただいたり、自分ひとりでは気づけない部分にも細かなアドバイスをいただいたことで、ESや面接の深掘りでもブレない志望動機に仕上がった。

・反省点

:試験勉強やゼミ研究、大学講義が忙しいなか、説明会への参加回数を多くしすぎたこと。シンプルに疲れてしまって、勉強時間が確保できない日も多くあった(ただ中長期的に見れば、その場で得た情報や、考えたことが官庁訪問にも活きたので結局反省点ではないかもしれない)

・工夫した点

- ①官庁訪問が始まる前に勝負をつけるつもりでインターン・説明会・個別面談に臨むこと。人事担当にじぶんの性格や強み・弱みについて深く知ってもらったこと。質疑応答やワークショップでのプレゼン、グルディスでも振る舞いを常にみられていることを意識する。
- ②能動的な姿勢を大事にした。漫然と説明会で話を聞くのではなく、事前にテーマについて調べ、自分なりの問題意識をもって臨む。質問のクオリティで周囲の学生に差をつける。(実際に質問内容をほめられることもあれば、個別面談の際に「関心分野に関しての着眼点が面白い」と、関心分野に従事する省員さんを紹介してもらえることもある。)

	外務省	経済産業省	防衛省
1月	説明会×6	説明会×1	個別面談×1、説明会×1
2月	座談会×6、個別面談×2	イベント×1	
3月	説明会×6	イベント×1	
4月	説明会×6、個別面談×3	イベント×2、個別面談×2	
5月	説明会×6、個別面談×3	イベント×2、個別面談×2	
6月	イベント×1、個別面談×2	イベント×2、個別面談×2	

高崎(外務省)

漠然と、資格のある公務員になりたいな、海外と関わる仕事に就きたいなと考えていた
(高校生のころ)



サークル(国際法の模擬裁判サークル)で国際法に触れ、外務省の職員ともやりとりをする機会を得たことで外務省に憧れを持つ(大学1年生～2年生)



実際に外務省のインターンに参加したことで、何のために働くのかを考えるようになり、
憧れではなく、実際に外務省で働きたいと強く思うようになる
(自分の共感できる目的の下で働きたいと思う)(大学3年夏)



民間就活を通じて、国家公務員総合職として働きたいと確信する(大学4年春)



官庁訪問1日目に外務省をまわる

(併願先の農林水産省を志望するに至った経緯)

漠然と、資格のある公務員になりたいな、海外と関わる仕事に就きたいなと考えていた
(高校で文理選択をしたときから実は農林水産省を意識していた)



国家公務員総合職試験をせっかく受験するのなら、外務省以外の省庁も考えてみようと思う
茨城県という第一次産業が盛んな地域出身であったため農林水産省の座談会に顔を出す
(大学3年12月)



座談会・説明会を通じて農林水産省の業務・人柄の魅力にはまる(大学3年終わりごろ)



自分が日本の一次産業・人口等の現状に抱いていた漠然とした危機感を座談会等を通し
実感して農林水産省でも働きたいと感じる(大学4年春)



官庁訪問2日目に農林水産省をまわる

・良かった点

- ① 明白な志望動機の軸を持つことができたこと。(外務省→国際法に携わりたい、農林水産省→第一次産業を復興させて人口増加させたい)
- ② 外務省インターンに参加した際に、職員の方をたくさん観察して全てを吸収しようとしたこと。(詳しく聞きたい方はぜひ聞いてください！)

・反省点

- ① 農林水産省と外務省以外の説明会に1度も足を運ばなかったこと。思いが変わったとは思わないが、せめて合同の説明会に顔を出して視野を広く持つべきだったとたまに思う。
- ② 志望度が高かった外務省の説明会やワークショップにはもっと積極的に足を運ぶべきだった。(面談を除くと、5回程度しか参加しておらずもっと参加すべき)

・工夫した点

①いつでも自分の好きな道を選べるように、なるべく多くの選択肢を残していたこと(当初、法曹になるかどうか迷っていたため、大学では法曹志望の多いゼミに入ったり法曹コースを修了していた。民間就活・官庁訪問に失敗した場合に大学4年の9月にロースクール受験できる下地を作っていた)

	外務省	農林水産省
1月		
2月	説明会×1	
3月		
4月	人事の方との面談×1	座談会×1、職員訪問×1(職員訪問後に人事の方との面談)
5月	説明会×2、 人事の方との面談×1	職員訪問×2(職員訪問後に人事の方との面談)
6月	官庁訪問	官庁訪問

高田(農林水産省)

幼少期から食べることが好き。身近に岡山の農産物や郷土料理に触れる。



高校生の頃、書籍『パスタでたどるイタリア史』を読み、イタリア料理における地域的多様性に関心をもつ。その流れで、イタリア語科に入学。



民間企業も含めて幅広く就職活動を行う中で、より多くの人に「豊かさ」を提供できる仕事がしたいと考え、国家公務員という職業に興味を持ち出す。



「食」に対する思い入れの強さから、官庁訪問1年前の夏に農林水産省の説明会に足を運ぶ。このままでは食環境が維持困難になるのでは！？との危機感をもつ。



自分自身の関心や問題意識を見極めるため、総務省、文部科学省、環境省、国土交通省など、様々な省庁の説明会に参加する。



民間就活(農林水産業に関わる金融企業)も真剣に行うことで、国(農林水産省)にしかできないことは何か、行政や国のあるべき姿について改めて見直す。



2,3日目に訪問する省庁を悩みだす。国土交通省の政策に高い関心を持った(志望動機がすんなり思いついた)こともあって、2日目訪問を決める。また、どの産業であっても環境政策は重要であると感じ、勉強のために3日目に環境省訪問を決める。

・良かった点

話せる原体験や自身の食への関心を裏付ける経験が多かったこと。それがあったことで、志望動機がまとまっていない時期でも採用担当に熱意は伝わり、なんかパッションだけは一流の面白いやつだと認識されていた(気がする)。

・反省点

もっともっと色々な省庁の説明会やワークショップに参加すればよかった。どの省庁の説明会でも普段は聞けないような話が聞けるので、社会勉強になると思う。

・工夫した点

どの省庁でも思っていることを正直に話し、職員の方に自分のもやもやを素直にぶつけたこと。より親身になって相談に乗ってもらえたり、面接練習の機会を得ることができた。

	農林水産省	国土交通省	環境省(辞退)
1月 (伊)	説明会×1		

	農林水産省	国土交通省	環境省(辞退)
2月 (伊)	座談会×1		
3月	説明会×6、座談会×1、OG とご飯×1		説明会×3
4月	説明会×5、座談会×2、職 員訪問×1	説明会×2、座談会×1	説明会×3
5月	説明会×6、座談会×1、現 場訪問×1	説明会×4、座談会×1、職員 訪問×1	説明会×4
6月	面接練習×1		

【官庁訪問対策のすゝめ】

1. 官庁訪問とは

官庁訪問とは、国家総合職試験最終合格者のみが参加できる、省庁ごとの面接試験です。これを乗り越えて、ようやく内々定が言い渡されます。

約2週間にわたってほぼ終日、面接が行われます。基本は3つまで省庁にエントリーすることができ、日替わりで訪問します。4クール制で、第3、4クールまで残ることができれば内々定が確実となります。

(2023官庁訪問の一例)

	第1クール			第2クール			第3クール		第4クール
	1日目	2日目	3日目	1日目	2日目	3日目	1日目	2日目	1日目
省庁	農水	国交	環境	農水	国交	環境	農水	(辞退)	農水内々定
日付	6/12 (月)	6/13 (火)	6/14 (水)	6/15 (木)	6/16 (金)	6/19 (月)	6/20 (火)	6/21 (水)	6/22 (木)

2. 官庁訪問に向けて今やるべきこと

①官庁訪問に関する情報収集

官庁訪問の仕組み・省庁ごとの特色など、今のうちから官庁訪問に関する正しい情報を入手しておきましょう。特に、省庁ごとの特色などは自分一人では入手しづらい情報だと思うので、省庁の採用担当の方に直接尋ねてみたり、内定者(LA含む)やTACの講師の方に聞いたりするのも有効だと思います。それらの情報を基に、官庁訪問に向けた日々の過ごし方を少しずつ変えていきましょう。

②志望動機を言語化しておく

自分がなぜ国家総合職を目指しているのか、どんな社会を理想とするのかなど、この機会に改めて見直してみましょう。志望するに至ったきっかけをもう一度思い返してみたり、なぜ民間ではないのかを確認するためにあえて民間就活を行ったりするのも良いでしょう。

今の時期から志望動機(熱意)の言語化を行うことのメリットは、2つあると考えています。1つ目は、志望の説得力につながるからです。座談会や雑談の中で、採用担当や職員の方から、どうしてうちの省庁に関心があるの?と聞かれることがあります。その際に、しっかり練られた志望動機を話せると、早い時期から志望度高い人なんだと思われるため、印象に残りやすくなるはずです。2つ目は、モチベーション維持につながるからです。内々定までには時に苦しいことも経験すると思います。そのような時にでも、自分の熱い志を思い出し、再度前進する手段として、なんで志望しているのかを明確にしておきましょう。

③インターンに行く

もし機会と余裕があるなら、インターンへの参加をおすすめします。インターンに参加するメリットは、2点あると考えています。

1つ目は、人事の方と知り合えることです。個人個人で話す時間を設けてもらえることもあり、自分自身のことをより深く知ってもらえるきっかけになります。人事の方も人間なので、知らない人よりも、人柄や能力を知っている人に対しての方が、官庁訪問において有利な評価を下しやすいと思います。一方で、自分の省庁に合わない判断されるリスクがないともいえません。しかし、基本的には人事の方と知り合うことはメリットが多い印象があります。

2つ目は、業務理解を深めることができることです。例えば、外務省のインターンは職場に2週間ほかの職員の隣で働く環境だったので、業務理解・働くイメージを具体的に持つことができました。業務理解があることを示せると、志望動機に説得力を持たせることができる上に、長く働いてくれそうという印象を与えることができます。業務理解は(インターン以外の方法でも)絶対に深めておくべきです！(高崎は、説明会に顔をあまり出していなかったのですが、インターンを通して得るべきことも得られていたから内々定をいただけたと自負しています)

ただし、インターンに参加せずに内々定を得る人が多くいるのも事実です。必須事項ではないので、他にすべきこと(大学の授業や部活動など)がある人は、そちらを優先しても全く問題ないと思います！！

④説明会に行く

【高崎】

その説明会に何の意味を見出すかによるとと思います。業務理解を深めたいor人事に積極性をアピールしたい・知り合いたいとのことなら、間違いなく行く意味はあります。自分の興味のある分野の説明会に行っても良いし、逆に全く知らない分野に行っても良いと思いますが、会ごとに目的・目標を決めておくと、行っても行かなくても安心できるはずです。ただ、個人的には説明会は一方方向のものが多く、座談会スタイルのものや政策シュミレーションとかの方が役立ったと感じます。

【北】

必須です。また、できる限り対面のほうが良いと思います。その場の空気を感じ取ることができ、数を重ねると横のつながりができることもあるからです。各省庁すくなくとも一度は説明会に参加し、官庁訪問する省庁は、説明会に何度も参加して悩んで悩んで決定しました。

もちろん事前準備無しで参加しても良いですが、事前に説明会の内容に沿った政策を調べておき質問を考えておくと考えが深まることもあるので良いです。質問は必須で顔を覚えてもらうには大事です。

【高田】

基本的には「日程的に行けるイベントは全部参加しておいた方が良い」のスタンスです。(ただし、全体業務説明会は除く。)

- ①省庁の重要政策についてわかりやすい説明が受けられる
- ②職場や職員の雰囲気やなをなんとなく肌で実感することができる

③自分の熱意や政策への理解を採用担当にアピールできる
など、メリットがたくさんあると思います！

【曾山】

勉強の息抜きもかねてなるべく参加していました。(内閣府33回、厚労省18回)

内閣府は所掌分野が広いこともあり、どの業務にあたっても自分が興味を持つことができるのかを確かめるため、ほぼすべての説明会に参加しました。内閣府を優先したため、必然的に厚労省の出席率は50%くらいになりました。

説明会においては、1回しか質問したことがなく、人事担当者の方に話しかけたこともなく、オンライン参加ばかりしていたので、説明会出席によって熱意をアピールすることはあまりできませんでした。とはいえ官庁訪問でも、説明会への出席状況によって有利/不利になると感じたことはないので(官庁訪問当日のパフォーマンスの方が大事)、人事へのアピールよりも、業務理解と息抜き目当てで行くのがいいと思います。

※なお、省庁によって異なると思うので、あくまで内閣府と厚労省を受けた者の一例として捉えてください。

【各試験区分の勉強方法】

【春区分共通：基礎能力編】

基礎能力で悩む方はかなり多いですが、実は基礎能力試験と専門択一試験には傾斜がついているので(約1.5倍)、専門択一試験を頑張れば基礎能力試験は足りすれすれの点数でも案外どうにかかります。気負いすぎずに頑張りましょう！！

ちなみに、筆者(高崎)の点数は以下の通りです。ちなみに秋試験受験の際は、数的処理7/16点でした。問題数が昨年と今年とで異なるので参考程度で見ていただけると嬉しいです！

- (1)文章理解 10/11点
- (2)数的処理 13/16点
- (3)知識問題 11/13点

<総論>

基礎能力試験は、以下を1時間50分で解く試験です。

- (1)文章理解 10問
- (2)数的処理 14問
- (3)知識(時事)6問

戦略としては、時間配分が何よりも大切になります。

私は、文章理解(1問2～3分)・知識問題(1問2分、分からない問題は適当にマーク)で爆速で終わらし、数的処理に多く時間を残していました。さらに、数的処理の中でも優先順位をつけて解く戦略をとっていました。

模試等を活用して、自分に一番向いている時間配分・解く順番を見極めてもらえたらと思います。

<文章理解>

よっぽど国語(英語)が苦手でない限り、満点を狙いましょう。ここで満点(あるいは1問ミス)をとれると、数的処理が楽になります。

まずは、問題を解いてみてどれぐらいのスピードでどれぐらい正解できるかを確認しましょう。時間測りながら解いてみてください！

大きな穴がない限り、毎週数問解くようにして慣れスピードアップに努めましょう。

英語については、苦手意識がそこまでない方も、並び替え問題には慣れておいた方が良いでしょう！並び替えについては指示語に着目して読むと良いです。

<知識問題>

余裕があったら勉強してください。他の基礎能力科目・専門択一科目を優先すべきです。(個人的にはノー勉強でもいいと思っています)

大学受験で共通テスト等を受けられた方は、その際に選択した科目、そうでない方も学部の勉強と関連する科目を中心に勉強しましょう。

新しい未知の科目について勉強する必要は全くないと思います。

時事問題は、勉強をしましょう。

時事対策は官庁訪問対策にもなります。隙間時間にテキストを読みまくりましょう。時間がない場合は、直前期でいいので時事対策講座(講義)を聞きつつレジュメを見ながら、主要なニュースを抑えましょう。

時間がある方は、2月ごろに発売される『速攻の時事』を使って勉強するといいでしょうのことで

す(過年度LA)。

<数的処理>

～数的処理何すれば分からない人へ～

①まずは自分の立ち位置を確認しよう

数的処理は、判断推理、空間把握、数的推理、資料解釈に大分されます。

どの分野が自分の苦手分野なのかをしっかりと把握しましょう。

30分を一度目安にして、時間がいくら経っても自力でまずは解けるところまで解いてみましょう。

- ・判断推理→10章に分かれていますので、1章3問ずつ解いてみましょう。
- ・空間把握→7章に分かれています、平面図形と空間図形に大分されます。平面・空間を5問ずつ解いてみましょう。
- ・数的推理→5章に分かれています。章ごとに解き方があります。1章3問ずつ解いてみましょう。
- ・資料解釈→苦手な人はそんなにいないです。最初解けなくても訓練で解けます。まずは2問解いてみましょう。

章ごとの得意・不得意等あると思います。この見極めが、実際の試験で解く順番を決めるうえで大変役立ちます。

②苦手な分野のどの段階で躓いているのかを見極めよう

解けなかった問題の中でも、どの段階まで解けたかをしっかりと確認しましょう。

↓

解答と見合わせて、どこまで自力で解けなかったのか、躓いた段階はどこなのか、どこを解決すれば解けるようになるのか(例えば数的推理の問題だったら、公式を覚えて無かったから解けなかった、公式の使い方が分からなかったのか)をしっかりと確認しましょう。

※凡ミスで解けなかった場合も、ミスを軽視してはいけません。ミスにも自分の癖が如実に現れるため、戒めましょう。

見極め方が分からない場合はカウンセリング等を利用してぜひ相談してください！！

③注力する分野を決めましょう

解けなかった分野の中で、原因が解決できそうな分野から優先して注力しましょう。全ての分野で良い点数を取ろうとする必要はないので、ある程度絞った勉強をしてもよいと思います。(捨て分野を作ったりなど)

ここも迷っている場合は、ぜひ相談してください！

～数的処理各論～

①判断推理

勉強に比較的時間がかかる・慣れが必要な分野です。毎日触れることを心掛けて勉強しましょう。

頭から順番に問題集に取り組むと、類似問題の連続で飽きる&解き慣れてしまうので、各章から1～3問ピックアップして毎日解くようにしましょう。嘘つきがでてくる問題は嫌だなあとか問題に好き嫌いが出てくると思います。それが、本番での取捨選択にも役立つようになります。

私は、本番では時間をたっぷりかけて解けるように最後に解いていました。

②空間把握

平面図形については、解き方がパターン化されていたり公式を覚えているかどうか勝負になるので、勉強したら伸びやすい科目です。

空間図形についても、解き方はパターン化されているものの、空間を頭の中に描いて考える必要があるのが苦手とする人も多くいます。私は、空間把握能力が壊滅的だったので、一切勉強せずに完全に捨てて臨みました。

③数的推理

算数、数学が得意だった人・中学受験の経験がある人はかなり取り組みやすいと思います。こういう問題が出たらこういう解き方・考え方をする、公式を使うといったことがかなりパターン化されているからです。

苦手意識がある方も、パターンさえ覚えればかなり解きやすいので、勉強したら伸びやすい・点数が計算しやすい科目です。まずは抜けている公式を暗記しましょう！

私は資料解釈の次に取り組むようにしていました。

④資料解釈

本番では、まずは資料解釈から解いて確実に点を拾うべきです。

勉強方法としては、講義を受講して、レジュメを読み込みましょう。(時間がない方はレジュメだけでも)その後、問題演習を進めていくと、ある程度の時間で解けるようになります。

私は、問題を読んで選択肢に目を通し、選択肢の中で立式・計算が楽なものから正誤を検証するようにしていました。

【法律区分編】

I. 必須科目勉強法

II. 選択科目勉強法

III. 二次試験勉強法

法律科目勉強法:まずは講義を見て、すぐに該当問題を解く。次に、テキスト復習&過去問演習を反復する。講義を見たり問題を解くうちに得た知識は、どんどんテキストに書き込む。なお、問題演習の目安として何周したかも載せていますが、あくまで目安です。周回することではなく、内容をしっかり理解することが目的です。自分の理解度に合わせて調整しましょう。

I. 必須科目(私の目標点数:憲6/7,民9/12,行10/12→実際点数:憲7/7,民10/12,行11/12)
:極論、満点を取れば選択科目を勉強しなくても充分合格点を超えます。最も力を注ぐべき科目たちです。

<各科目勉強法>

★憲法、民法、行政法は範囲がとても広いですが、過去問演習を行っていると毎年似たような問題が出題されていることに気づくと思います。徹底的に過去問演習を行い、分からないところがあればテキストに立ち返り、解ける問題を着実に増やしていきましょう。

特に、一、二周目は講義を見たばかりで理解が不十分なため、ミスが多くなってしまい時間がかかります。しかしここで折れず、確実に問題集を進め、より早く三周目以降に取り掛かれるようにしましょう。

(1)憲法

- 高得点(7問中5問以上)を目指します。何度も反復し、重要な条文は○条○項かまで覚えると論述試験にも役立ちます。判例は結論だけではなく理由付けも覚えましょう。結論は合っていても理由付けが異なる選択肢のパターンが多いです。時間があれば有名判例の判決文を読んでおくといいです。
- 人権分野:条文の内容の理解・暗記は当然ですが、その語句が何を意味しているのかについて判例・学説を覚えましょう。判例については特に理由付けのひっかけが多いです。
- 統治分野:細かく覚えることが多いですが、繰り返し問われやすい部分があるので過去問演習が重要です。過去問を繰り返し解いて、「また同じこと聞いている」くらいの感覚になれば◎
- 問題集:4~5周。

(2)民法

- 可能な限りの得点(12問中9問以上)を目指します。
- 総論、物権、債権総論、債権各論の4分野にテキストを切り分けて、それぞれでテキスト・過去問をまわしていくのがオススメです。(テキストが薄くなるので持ち運びにも便利。)
- テキストや問題解説を読んでいるときに少しでも分からないことがあれば、そのまま流さず、よく考えてみてください。分からないけどサラッと流したところが、意外と模試や本番で出たりします。
- 抽象的な文言で終わっている一般条文(1条2項・709条等)と具体的な要件が挙げられている条文(即時取得など)があるので、前者はその解釈を、後者は要件の暗記や適用タイミングを中心に覚えていきましょう。

- 相続・家族法：民法の中でもかなり特殊な部分です。条文知識で選択肢の判別が可能なので、テキストを読み込むことを中心に学習しましょう。
- 問題集：4～5周

(3) 行政法

- 可能な限りの得点(12問中9問以上)を目指します。判例が非常に多く、争点や結論だけでなく理由付けや論理構成も正確に覚える必要があります。
- 行政法総論：基本的な知識や概念を暗記しましょう。論述にも使えます。選択肢として問われることもあるので十分な学習を心掛けましょう。
- 行政手続法・救済法：総論の知識を踏まえ、法律の目的から各条文の要件まで正確な暗記が必要です。判例を先に暗記することで大枠を理解し、細かい部分は後から少しずつ覚えていくと良いかもしれません。行政不服審査法、行政事件訴訟法は講義で条文が配られると思いますが、定義や解説を書き加え、定期的に全文を読み直していました。
- 行政組織法：あまり出題は多くありませんが、失点は避けたいところです。出題論点はある程度毎年決まっています。過去問を解いて出題パターンをつかみましょう。
- 問題集：3～4周

Ⅱ. 選択科目：自分がとつきやすい科目を選ぼう。あまり時間を使いすぎないように。

<科目全体>

- 憲法・民法・行政法よりも重要度は低いです。そのため、主要科目の学習時間を減らさずに、いかに効率的に勉強できるかが大切になります。
- 筆者(曾山)の選択は、刑法・労働法・財政学。
理想は全科目勉強し、当日にその場で自信のあるものを選ぶのが良いですが、もちろん現実的ではありません。実際には3、4科目勉強し、9問中6問以上の得点を目指すことになると思います。
- 内容が簡単らしいという噂で財政学を選びましたが、数字を覚えるのが苦手なので、後々後悔しました。学部である程度勉強した会社法や国際法にすればよかったです。噂に惑わされず、過去問を見ながら、自分になじみのある科目を選んでみましょう。
- 問題集を使う場合は、近年のもの(過去5年程度)を中心に勉強しましょう。あまりに昔のものを解くことは時間的にも、効率性からもあまり好ましくありません。
- 2月は殆ど論述対策に使うことを考えると、1月までにはテキストを一周できていると安心できます。3月の再勉強時に復習することを念頭に置いて勉強を進めましょう。
- 筆者はあまり時間が取れず、講義を見てからとりあえず問題集を1周し、その後出題表を見ながら頻出範囲を絞り、そこだけ問題集の2周目に取り組みました。ただやはり、範囲が広いのに3問しか出ないという圧倒的コスバの悪さに、割とメンタルがやられました。最後まで不安は尽きませんでしたが、主要3科目を固めていたことで、多少緊張を和らげることはできました。

<勉強を始める時期>

- 大学等を通して一度も触れたことがない人
知識量が要求される法律系科目は12月上旬くらいからは受講し始めておきたいところです。今から始める人でも2か月あれば十分に基礎知識は入ります。
- 少し触れたことがある人
12月下旬頃からでも間に合います。必要以上に時間を使いすぎないように注意しましょう。

※筆者(曾山:法学部)は、刑法は10月頃、労働法と財政学は1月頃から講義を視聴していました。今年から試験日が2週間前倒しになっていることに留意してください。

<各科目勉強法>

(1)刑法

- 頻出判例と近年(直近**10**年程度)の重要判例を覚えておけば、1問はとれます。条文の構成要件や解釈まで覚えられるとかなり安定すると思います。
- 問題集は直近のものを中心に解きましょう。
- 直前期は予想分野を中心にテキストを読み、過去問で間違えた部分をチェックしておくの良いと思います。

(2)労働法

- 覚える条文数が少なく、複雑な学説の対立も少ないので、高得点が狙える科目です。
- 頻出の条文と判例を取りこぼしなく覚えていくことが大切です！同じ判例が繰り返し出題されるので、過去問演習や模試をしっかりとこなし、テキストとレジュメで知識を定着させると良いでしょう。過去問には出ていない、近年の重要判例の暗記も忘れないようにしましょう。

(3)商法

- 民法の特別法であることを念頭に学習しましょう。判例は商法特有のものもありますが、民法で既に触れたものもあるので民法の復習をしつつ学習を進めましょう。
- 大半が会社法からの出題です。まずは法人の種類を覚えましょう。次に関連する判例の構成を覚えておくが高得点を狙えます。
- 1問は手形法との融合問題が出やすいです。満点を狙う場合は手形法分野の知識が必要となりますが、3問中2問で妥協し、主要科目に学習時間を使うことも戦略として視野に入ります。

(4)国際法

- 2次試験の論述として選択することが可能な科目です。主要科目が苦手な場合は国際法を2次試験用の保険として使うことも視野に入れて勉強しましょう。
- 国内法とは異なる論理構成をしていますが、問われる知識はそこまで複雑なものはなく範囲は広いものの、充分高得点が狙えます。また、世界史が得意な方は近現代史の知識と結び付けることで判例の理解がしやすいのでオススメです。
- 直前期は総まとめ講義を利用して重要事項や判例を中心に復習しましょう

(5)経済学

- グラフの読み取りなど数学的な理解が必須なだけに、得手・不得手がはっきりと分かれてしまう分野です。数学的な考えが得意な人は短期間で理解しやすいです。東京都・横浜市以外の地方上級も併願しようと考えている人は、選択をおすすめします。必要な数学的知識は高2の微分までなので、文系だからできない、ということはありません。
- 苦手意識の強い人や全くの経済初学者は、無理に時間と労力を割かず、得点しやすい分野(経済史、経済事情のような暗記中心の分野)のみ覚えて、1点を確実に取りに行くのも手です！

(6) 財政学

- 経済学と異なり計算等は必要ないので、勉強しやすいです。完全に暗記科目です。
- 講義を受けて一通り過去問をまわした後は、TACの模試で出題された範囲を中心に、テキストを読み込み、ノートにまとめるなどして対策するとよいです。
- 本試験1ヶ月前に配布される経済事情のテキスト(経済財政白書のデータをまとめたもの)は、全ページ暗記する勢いで読み込みましょう！基礎能力分野の時事でも活きますと思います。
- 予算制度や税制度などきちんと勉強しておく、政策論文や官庁訪問でも役に立つことがあるのでおすすめです！

Ⅲ. 二次試験勉強法

<総論>

- 一次試験で必要な知識があつて初めて論述が書けるようになるので、まずは一次試験の過去問を解けるように知識を固めましょう。過去問を解く際に、なぜこの選択肢が間違っているのかを確認しながら解くようにすると良いと思います。
- 論述方法は法的三段論法(問題把握→規範定立→あてはめ)に沿い、適切な接続詞を用いて文章を作成できるようにしましょう。特に、「どこが問題で」「何の条文を用いて」解決するのが重要となってきます。
- 自分で書いているだけでは独りよがりな文章となっても気づかないことが多々あります。必ず答練を利用し添削を受けるようにしてください。

<科目別>

(1) 憲法

- 事例問題として出題されます。まずはどこが問題となっているのかを正確に把握しましょう。そして、何の条文が関係してきそうかを書き出して語句の解釈を書きます。最後に、具体的な事情を条文にあてはめることで論理破綻を起こしていないかを確認します。
- 書けなかったところは知識が不足している分野です。必ずテキストで復習して次に活かしましょう
- 過去問になかった論点が出題されることもあるため、ある程度基礎が固まってきたら、新たな論点を入れるために講師がおすすめする本を読んでみましょう。

※おすすめ参考書

・『憲法』芦部信喜(著)、高橋和之(補訂)(岩波書店)

(2) 民法

- 事例問題として出題されます。他の科目に比べて論点が分かりやすく、知識があれば論述はしやすい科目であるように感じます。条文数や判例が多く正確な記述は難しいですが、仮に詳しい条文数等を忘れてしまっても、どの条文・判例の話をしているのかについて他人が判断できるような論述を心掛けましょう。
- 特に、物権なのか債権なのか/どの条文からくる請求権なのか/結論が問題の解答と適合しているかを中心に確認しながら記述しましょう。

※おすすめ参考書

・『基本講義債権各論Ⅰ 契約法、事務管理、不当利得』『基本講義債権各論Ⅱ 不法行為法』塩

見佳男(新世社)

(3) 行政法

- 事例問題として出題されます。他科目と異なり、その場での資料として多数の特別法が提供され、適切な条文をその場で選び出す力が必要となります。他科目以上に演習による訓練が重要となります。
- 難易度そのものは他科目に比して易しめのように感じます。訴訟要件や各項目の定義を押さえておくことが重要。しかし、他の受験生も書き落としがない部分でもあるので、必ず記憶しておく必要があります。

※おすすめ参考書

・『行政法Ⅰ』『行政法Ⅱ』塩野宏(有斐閣)、『行政法入門 第7版』藤田宙靖(有斐閣)

(4) 国際法

- 事例問題として出題されます。近年はあまり複雑な問題の出題がないため、知識を確実にすることで十分に得点できます。
- 難点としては、一次試験では3問しか出題されない都合上、学習時間の配分が難しい点が挙げられます。

※おすすめ参考書

・『演習プラクティス国際法』柳原正治、森川幸一、兼原敦子編(信山社出版)

・『判例国際法』松井芳郎編集代表(東信堂)

(5) 公共政策A・B

- 政策論文対策を流用することができるため、効率性を重視するのであればとても有用です。また、本番時にどうしても解けなかった時の保険としても心強い科目と言えます。資料を参照していることを明確に示し、目的・方法・適切性等を多様な観点から検討し、答案に記述しましょう。
- Aは法律を用いた事例、Bは経済に関連した事例が提示されます。事前にニュースや政策を知識として用意しておき、その場で反映させましょう。

〈LA曾山の勉強スケジュール〉※24年度は23年度より試験日程が早まるため、ご注意ください。

時	基礎	専門択一(必須)						選	記述
		憲法	民法総論	物権	債権総論	債権各論	行政法		
12月第1週	主に数的処理。毎日判断推理を2問、資料解釈を週末に2問、数的推理を週末に1, 2	・問題集のミスを一周。 ・テキスト復習。	・問題集4周目完了	・問題集3周目。	・債務不履行、責任財産の維持復習。	契約総論、売買・賃貸借復習。	・問題集2周目(手続き、情報) ・講義13回目。	・刑法復習	・憲法講義 ・憲法の論証を覚え始める
12月第2週			・テキスト復習。	・問題集3周目続き。 ・テキスト担保物権～抵当権復習。	・消滅、多数、譲渡復習。	・事務管理復習。	・問題集2周目(国賠、損失) ・講義13回目の演習。 ・講義14回目。		

12月第3週	時間程度。 ただ、専門科目に追われて達成できないときもあった。	・テキスト復習1時間＋論証暗記30分を毎日行う。	・テキスト復習。	・テキスト復習。	・問題集3週目。(1日2時間程度)	・問題集2週目完了。	・講義14回目の演習。		
12月第4週		・問題集の人権編を一周。 ・テキスト復習30分と論証暗記30分を毎日行う。	・1日1トピック復習。	・1日1トピック復習。 ・問題集4週目。	・問題集4週目 ・テキスト暗記は電車で。	・問題集3週目。	・問題集2週目(抗告訴訟)。		
12月最終週		・問題集の人権編、統治編を一周。			・1日1トピック復習。 ・テキスト暗記は電車で。		・講義15回目＋演習。		
反省点	特になし						特になし		

〈LA曾山の勉強スケジュール〉

時	基礎	専門択一(必須)						選	記述
		憲法	民法総論	物権	債権総論	債権各論	行政法		
1月第1週	・数処 2問/日		・時効の講義を聞き直す。 ・テキスト復習。	・講義を聞き直す。	・テキスト復習	テキスト復習	・講義⑮ 視聴、演習 ・問題集 (不服、争訟)	・労働法② 視聴	なし
1月第2週		・問題集	・問題集 ・債権各論テキスト復習(賃貸借)				・問題集	・労働法③④ 視聴	・憲法答練① ・民法答練①
1月第3週		・テキスト ・問題集	・テキスト ・問題集 ・演習②③終了					・刑テキスト ・財政学講義	・憲法答練② ・民法答練②③
1月第4週		・テキスト ・問題集					・行政法演習①②③ ・テキスト復習 ・問題集	・財政学問題集	

1 月 の 進 捗		・問題集3 周目終了 ・演習1,2 回復習	・家族法問題集2周目終了 ・テキスト1周	・問題集3 周目終了 ・演習 ①②③		
反 省 点	専門に追われて2問もできず。	・手帳に詳しい記録が残っておらず、曖昧な表現ばかりでごめんなさい ・ひたすらテキスト復習と、過去問題集をやっていました。時々答練を解いたり、択一の演習を行っていました。 ・特に民法の不安な単元は、講義を改めて聞き直していました。				
1 月 模 試 の 結 果	・文章 8/11 ・数処 8/16 ・知識 7/13 ・合計 23/40 (平均 20.7)	7/7	6/12	10/12	商法1 刑法2 労働法1 国際法1 財政学1	
		・合計29/40(平均22.0)				

【経済区分編】

I. 必須科目勉強法

II. 選択科目勉強法

III. 二次試験勉強法

合格ボーダー組み合わせ【2023年度経済】 専▶専門(40)、基▶基礎能力(40)

専	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
基	26	25	24	23	22	20	19	18	17	14	14	13	12	12	12	12	12	12	12

経済区分受講生と言っても、自分が今どのような状況なのかによって選択すべき科目や取るべき勉強法、割くべき時間は変わってくると思います。また人それぞれ得意不得意の科目があると思います。

私自身特に特殊なことはしていませんでした。基本的にはとにかく問題集を繰り返すことが大事だと思います。効率よく繰り返す方法を自分なりに編み出すのが一番の筆記合格の近道のように感じます。極論講義を見る時間がない！という方でもとにかく問題集をやって解き方を覚えれば攻略可能な区分だと思います。

私が当時置かれていた状況を以下にまとめているので、当記事はこの点を踏まえてお読みいただき、参考にできる部分のみ参考にいただければ幸いです(^^)♪

〈当時の状況〉

- ・ビデオブース講座受講生
- ・経済学部所属で、経済理論、経済政策、財政学は大学で勉強していた
- ・計算は得意で暗記は苦手
- ・一日にバーツと一つの分野を勉強するタイプ

I. 必須科目の勉強法

最優先すべき科目は間違いなく経済理論です。経済理論は財政学・経済政策、経済事情、選択科目の国際経済学へと派生するので必ずマスターしましょう。経済理論で8～9割の問題を正解できる力があれば、財政学・経済政策、経済事情でもそれぞれ5問中2～3問正解するだけの力を得られるほど重要な科目となります！

(1) 経済理論(目標正答数12～14点)

必須科目の中でも最重要の科目です。経済理論は専門択一試験で16問出題されますが、これは必須科目31問のうちの半分をしめます。また、二次試験においても唯一の必答問題となっています。さらに、財政学や国際経済学など、経済理論の知識を基盤として成り立っている科目は多いです。これらの点を意識して早めにロジックを理解し、安定して得点できるように心がけることが大切です。グラフを用いた問題も毎年必ず出ているので、問題集の解答を参考にしてもいいので余裕があればグラフも適宜書けるようになることをおすすめします！

(教材)

TACのテキスト・問題集

(勉強法) LA北の場合

①講義を聞く

もし所属が経済系の学部の方で、ある程度ミクロとマクロを習っている方で時間がない方はこのパートを省いて問題集に臨むのも良し。(自分はそうしてた)。またTACは講義と問題集で分野の区切り方が違うので、必要な部分だけかいつまんで講義を聞くのも手段の一つとして有効です。初学のかたは分野が終わるごとに学んだ分野の範囲だけ問題集を解くことを勧めます。

②問題集を解く

講義を聞き終わったら、経済理論の問題集に取り組むようにしました。

問題部分と解答部分は別々に割いて使っていました。

問題集を解く上で大事にしていたのは解いた問題にチェックすることです(解けたのはA、計算や初歩的なミスはB、全く分からなかったらC)

BとCを付けた問題のみを解きすべてAになるまで繰り返す。もちろんAになった問題も定期的に解きましょう。わたくしは油断してわかるはずなのに初歩的なミスをして本番落とした問題があるので...

(2) 財政学・経済政策(目標正答数3問)

基本的には経済理論と同じ流れで十分なうえ、経済理論の学習でコチラの科目もカバーできるので経済理論をある程度マスターしておく、かなり取り組みやすいです。

特に重要になるのは財政学の制度の方だと思います。こちらは、暗記系の科目となるので用語や制度をしっかりと暗記することが大事になります。講義と近年の予算額内訳等は把握しておくとい良いでしょう。公務員の併願先の試験にも活かせる知識だと思います。

(教材)

基本的にはTACの講義、テキストで十分です。

(勉強法)

①講義を聞く

②問題集を解く

経済理論と同じやり方で進めていました。財政学(制度)の方は暗記があるので、ただ問題を解くのではなく一つ一つ語句を理解しながら習得しました。

(3) 経済事情(目標正答数3問)

必須問題としては5問、選択問題としては経済史と合わせて3問出題されます。必須問題の5問はオーソドックスな時事問題、選択問題は若干マニアックな問題が出題される傾向にあります。基礎問題の時事対策で得た知識も経済事情にも生きると感じています。

(教材)

TACの講義、テキスト

(勉強法)

経済事情もTACの講義を聞き、問題集を解くことは解き方のコツを掴むうえで有用だと思います。講義の中でテキストには載っていない語句など説明があるのでその都度メモをするとよいでしょう。しかし、時事問題は範囲が広く、テキストに載せられる最新の情報が限られることがある以上、TACのテキストだけでは知識面で不足が生じてしまいます。経済財政白書や通商白書からの出題が多いことは事実なので、時間に余裕があれば白書に目を通すのも1つの手だと思います。

(4) 統計学・計量経済学(目標正答数2~3問)

統計学・計量経済学は、二次試験にも出題されず経済理論の応用も利かないため、捨てようと

思っている人もいるかもしれません。40問中5問というのはそれなりの配点ですし、公式を覚えれば確実に得点できる分野なので、捨てるのはもったいないと思います。一度マスターすれば後が楽だと思います。しかし、必須科目の中では優先順位をさげていたので試験一か月前にマスターしたように思います。

(教材)

TACの講義、テキスト

(勉強法)

経済理論と勉強の進め方は同じでした。

ただ、分野ごとに出題のされやすさにムラがあるので、優先順位をつけるといいと思います。まず一通りの統計学・計量経済学のうち、近年出題頻度の高い、単回帰分析と重回帰分析を確実に得点できるようにすると良いです。

Ⅱ. 選択科目の勉強法(目標正答数6問)

専門択一の選択科目は、経済史・経済事情、国際経済学、経営学、憲法、民法の5科目から各3問用意されており、任意の3分野9問を選んで回答する形式になっています。たいていの人は経済史・経済事情、国際経済学、経営学を選ぶのですが私の場合、経営学が全てわからなかったので本番で勉強時間ゼロの憲法を解きました。選択科目の決め方としては、5科目とも講義を聞く→苦手に感じた2科目の勉強をやめ、残りの3科目を選択するつもりで演習をスタートさせる、という決め方が理想かと思います。1回目の択一模試までに何を選ぶかを決められるといいでしょう。

どの科目を選択するにしても、TACの講義、テキストで十分対応可能です。

(1) 経済事情・経済史

勉強法としては暗記メインです。経済史のみを見ると1~2問しか出題されず、その割に範囲が膨大なので運要素が強めだと思います。初学者、または時間がなければ捨てるのもあります。基本的には問題集を繰り返すことが必須だと思います。

(2) 国際経済学

この科目も経済理論の派生だと思います！

同様に講義を見て、問題集を繰り返し解くのが有効です。グラフ問題が頻出であるためグラフを自分で書くことはグラフ理解の手助けになると思います。

(3) 民法、憲法、経営学

この三科目はかなり範囲が広いです。経営学は満点は取るのが難しいですが1,2問をとれるまでの勉強時間が短かったようにおもいます。私は暗記が苦手だったので、この三科目の優先順位は低かったです(なんなら憲法と民法はノータッチ。)しかし、国家一般職や専門職を筆頭に併願を考えている方は民法と憲法を学んでおく併願先の勉強も同時に進められるのでおすすめです。

憲法や民法も、問題集を繰り返し解いて覚えることは大きな力になります。

Ⅲ. 二次試験の勉強法

二次試験は経済理論が必答で、その他に2024年度からは財政学、経済政策、公共政策A公共政策Bの中から1科目を選ぶ必要があります。私は1次試験までは択一の勉強に集中し、1次試験終了後から2次試験の勉強を始めましたが、そのせいで答練を提出することができなかったで、できるだけ早めに択一科目を仕上げて臨むのがよいでしょう！

経験談としては、一次試験のあと息抜きをしすぎると後でかなりのストレスになるかもしれないので(息抜きしまくってさあ頑張ろう！って時に食中毒になった)、一次試験後はできるだけ早く切り替えて二次試験の対策をしましょう！

★勉強法について

以下の4種類の学習方法が挙げられます。

①択一を満足いくまで解けるようにする

そもそも択一で解けない問題は記述でも解けません。少なくとも答練に手を付けるのは択一を7～8割とれるようになってからの方が良いと思います。記述の問題集を全部解き終わった！という方は択一問題集を使って記述を丁寧に書くことも学習の一つとして有効だと思います。

②再現解答を読む

いざ記述を解くとなるとどのように書いたらいいのかどこまで詳細に書くべきなのか悩むこともあるかと思います。再現解答を読んでどんな解答がどれくらいの点数を取ったのかよく読んで理解することは大事です。

③答練を解く

専門記述は、内容はもちろん、形式面や解答用紙の使い方でも注意すべきポイントやコツが多いです。特に数式の書き方はどの程度まで許容されるかが分かりづらいと思います。そのようなポイントを掴むために、プロである講師の先生の添削はかなり有効です。万一起出期限までに答練に取り掛かれなければ、専門記述模試は受けてみましょう！

④過去問を解く

テキストには15年分の過去問が掲載されていますが、時間がなければ自分で解くのは2～3年分がいいと思います。私も全て解き切ることはできませんでしたが選択する科目はあらかじめ決め、その科目を中心に学習しました。公共政策に関しては過去の合格者の解答再現を何度も読んで自分なりのフォーマットをある程度考えて本番に臨みました。自分で手を付けられない部分は講義の解説を聞き、書くべきポイントを押さえましょう。

⑤試験委員の先生の著作を読む

正直合格のためにここまで手を回す必要はないと思いますが、上位合格を目指す方はやっておくとよいでしょう。経済理論、財政学、経済政策の問題は毎年委員の先生のご専門が反映されます。特に後半の小問は委員の先生の著作からそのまま出ることもあるそうなので、読んでおくとうれしいと思います。ちなみに、試験委員の先生が誰になるかは2月前後に人事院から発表される官報に掲載されます。TACの講義内でも教えてもらえるはずなのでチェックするようにしましょう。

★記述模試の使い方について

実力が足りないと感じても受けた方がいいと思います。模試は偏差値と順位が出るため、専門記述における自分の立ち位置を把握でき、添削の中で自分の答案の良かった点や、悪かった点をどのように改善していけばいいのかが示されるので、この先の勉強方針が立てやすくなります。私も模試があった時点で勉強を始めてすらいなかったのが受けるか迷いましたが、受けて良かったと思います！

〈LA北の勉強スケジュール〉

※かなりギリギリです

2024年度から試験日がさらに早まるので一か月前倒しで参考にしてもらえ ばありがたいです。

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
12月第1週	数的処理のみ1日少なくとも5問程度は解いていた。 たまーに文章理解の問題集をやる程度	経済理論の習得に勤しむ この時点で手を出していたのは財政学と経済理論のみ	特になし
12月第2週			特になし
12月第3週			特になし
12月第4週			特になし
12月最終週			特になし
反省点	特になし	経済理論の学習をもう少し早く進めておけば、他の科目も習得するのが早かったと思われる。	特になし

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
1月第1週	模試受ける	経済理論を第4週までに2、3回問題集を解く。 第4週で財政学(理論)を解く。 模試を受ける	特になし
1月第2週			特になし
1月第3週			特になし
1月第4週			特になし
反省点	数的処理の中でもどの単元を攻めるかあらかじめ決めておくべきだった。	大学のテストもあったのでしっかりスケジュールを作って管理しておけばもっとストレスなく取り組めたかも	答練をやるべし

【政治・国際区分編①】

(LA吉田:専門択一8割超えを狙え! 編)

I. 必須科目勉強法

II. 選択科目勉強法

III. 二次試験勉強法

当セクションでは、10月から学習を開始し専門択一の正答率8割超えを達成したLA吉田から勉強法をアドバイス! 基礎能力が不安な受験生は、得点傾斜のかかる専門択一で合格点をねらっていこう!

【2022年度-政治・国際】 専▶専門(40)、基▶基礎能力(40)

専	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
基	17	16	15	14	13	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 来年度試験の詳細については[人事院HP](#)をチェック

I. 専門択一必須科目勉強法

<必須科目全体>

(1) 政治学《目標: 7~9 / 10点》

...政治学は模試〜本番を含めて、吉田が唯一コンスタントに7~8点をとれていた科目でした。基本はTACのテキストで「暗記」と「理解」のくり返しです。人物・思想・概念を丁寧に暗記していきます。また、講義内の講師の大事な言葉は、どんどんテキストに書き込んでいきましょう。テキスト上の単語を「点」とすれば、講師の言葉はそれらをつなぐ「線」であると言えます。また、吉田の場合は、暗記用のノート(罫線のないやつ)を用意して、テキストの全セクションの人物・用語・考え方を自分なりに自由にまとめなおしていました。暗記と並行して「自分の言葉でまとめなおす」というこの作業が、いま思えば、論文対策にも生きていたと思います。

ちなみに論文試験本番では、政治学ではなく行政学を使いました(?????)

ここがポイント!

◎問題演習については全ての範囲を徹底的にやりきる必要はなし!

...政治学の問題演習用テキストは、範囲が広く・問題量も多いのが特徴です。そのため、選択肢のなかには、必ずしもTACのテキストに載っていない内容からの出題もみられます。でも大丈夫。そのような内容は滅多に試験にはでませんし、仮にでたとしても受験生の間で差は生まれません。「TACのテキスト内容をベースにして、選択肢を適切に切れているか?」この一点に集中していきましょう。

◎不安な分野は、何度も講義を見直す!

...吉田の場合は、各国政治(議会/選挙/政党)、制度史(テキストの一番最後)、戦後日本政治史(=主に自民党史)について、4~5回視聴しました。自分の苦手・不安な分野を箇条書き(できれば

不安順)で整理し、定期的に復習をしていきましょう。

(2) 国際関係《目標: 7~9 / 10点》

...国際関係論の勉強のコツは、おもに①理論・概念②世界史③国際機構・組織、この3つをそれぞれ暗記し、さらにこの各分野の暗記と理解を分野同士で相互に補完しあうことです(ちょっと何言ってるかわからない)。①については、人・理論・概念を一致させることがまずは大切です。ここでも自分の言葉で説明する練習をしながら暗記しましょう。②については、冷戦史・軍縮(拡)史、地域紛争史(アフリカ、アジア、カフカス・コーカサス)からの出題が多いと感じます。これらの大國間競争、民族自決運動が、「どのような経緯(過去)から生じ、どのような形で現代とつながっているか」を意識できるとなおよ。③国際機構・組織については、国連(安保理、PKO)・EU(を含む各地域機構)、NATO等が、どのような背景で設立され、戦後の様々な困難にどのように対応してきたのかを②世界史・現代史の重要な事件と合わせて理解することが大切です。このひとつひとつの具体的なケースの理解が、①の理論を語る際の説得力に繋がっていきます。(難しい)

ここがポイント！

◎問題集を周回せよ！

...国際関係論の問題集は、政治学の問題集と比べると冊子が少し薄い。そして余白が多い。これがすごく大切。1週目で“大量に”間違えた問題は、問題番号のそばに印をつけておこう。このとき、選択肢中のよくわからなかった単語や文章にマーカーも引いておこう。問題文や単語をみた時に、これまで自分がどんな誤解や間違い方をしたのかを思い出せば完璧。二週目は間違えた問題だけを解いてまた大量に間違えるんだぜ。でも大丈夫。少しずつ、解ける分野を増やしていこう。3週目からは間違いが半減し、4週目は両手で数えられる程度になります。これが嬉しいと同時に少し寂しい。たまには初回で丸が付いた(数少ない)問題も解き直していこう。TACの問題集より本番のほうが簡単でした(ヨシダ所感)

◎余白は付箋を貼るためにある！

...問題を間違える。解答やテキストに戻り、自分に足りなかった知識を把握する。ここからが大事なのでよく聞いておくように。自分に不足していた知識や理解を、忘れないうちに付箋にメモ+余白に貼っておくんだぜ。付箋を貼ったページは正解したページよりも重くなっていて、冊子をパラパラするとこれまで自分がたくさん間違えた問題や、知らなかった知識をメモしたページが自然にあなたをお迎えにあがるんだぜ。寝る前にちらっと確認するもよし！試験当日に貼り付けた数々の付箋から勇気をもらうもよし！おれはこれで9/10をとったから、みんなも是非参考にしてくれよな～

(3) 憲法《目標: 4~5 / 5点》...すべての分野に共通するのは、まず判例を覚えること。最高裁は、どの基準を用いて合憲・違憲を判断したのか、どんな文言で理由付けを行ったのか、類似ケースでも基準は共通しているか否か、などです(多い)。講師によるひとつひとつのケース解説が面白いので、一度みたらなかなか忘れないと思います。早めに復習をして、ばっちり定着させましょう。

ここがポイント！

◎統治・裁判所の分野も対策しよう！

...憲法の対策は基本的人権だけで大丈夫！と言いたいところですが、8割を狙うなら統治・裁判所の分野も攻略しましょう。必須科目である以上、対策しないことは「確実に失点する」ことになります。それはやはりもったいないと思ってしまいます。

個人的には、先生の講義がわかりやすいことや、聞かれる部分がほとんど決まっていることもあり、統治・裁判所分野の対策は言うほど難しくないと思いました。例えば、衆議院の優越が規定されている分野は何か、どんなシチュエーションでどれくらいの賛成が得られた場合に法案は可決されるのか、最高裁長官を任命するのは誰か、裁判所は、具体的な事案をはなれて抽象的な違憲審査をすることはできるか、などです。これらの分野を押さえると、一気に2,3点のプラスが見込めます。自分も残り2か月で当該分野の対策をおこない、5/5をゲットしました。(激アツじゃん！)

Ⅱ. 専門択一／選択科目勉強法

<選択科目全体>

1次の専門択一40問中15問が選択科目です。行政学5問、行政法5問、民法3問、国際法5問、国際事情3問、財政学3問、経済学3問、経済政策3問の30問の中から好きな組み合わせで15問選択して解答します。一科目選んだらその科目の問題を全て解答しなければならないわけではなく、例えば行政学を3問だけ答えるといったことも可能です。

国際事情と財政学は全員選択すべき科目であると言えます。しかし行政学、国際法、行政法の中から何を選ぶかはそれぞれの相性次第だと思います。勉強の仕方は基本的に必須科目と同じです。

<勉強を始める時期>

ヨシダの場合は、1月ころから国際法、2月ころから行政学・財政学を勉強しました。でもまずは必須科目の政治学・国際関係・憲法を固めることを最優先に。なぜなら必須科目10点・10点・5点、選択科目0点でも余裕で合格できるからです。

<各科目勉強法>

(1) 行政学《目標: 3~4 / 5点》

...5問すべてを選択すべきとは思いません。思いのほか出題範囲が広がったり、細かな知識が問われる場合もあるからです。コツとしては、政治学の学習内容と隣接する分野から取り組むことです。(Ex. 政治学の自民党史を復習する際に、これまで何度かなされてきた「行政改革」の分野について合わせて復習をする。等) 理論の問題が毎年2問程度出題されているので、そこを確実に得点できる勉強を心掛けましょう。

また、理論の覚え方についても政治学と一緒にするので、少しずつカバー範囲を増やしていければ十分です。

(2) 国際法《目標: 4~5 / 5点》

...出題範囲が広い一方で、問われる内容はかなり限られている。そういう点では憲法と勉強の仕方が似ているところがあります(ヨシダ所感)。講義は海洋法が終わったところ(おそらく全体のうち半分くらい)で講義を見るのをやめ、問題演習に先に取り組み、問われた部分をテキストと解答解説で補足する形に勉強方法を修正してから、学習が効率的に進められるようになりました。本番でもしっかり4/4をとることができました(ナイスウ！)

(3) 国際事情《目標: 3 / 3点》...特に対策なし。文章理解の英語の部分と、国際関係の時事の合体バージョンという感じ。国連機関のレポートが多く出題されるが、意外と難しい単語は少ない。常識的に考えてわかる内容が多い。(民主主義国家の数は冷戦終了前後から徐々に増えていったが、近年は権威主義国家が増えてきているし意外と安定している、など。)

(4) 財政学《目標：1~2点》...TACのテキストと講義3回で完結する神コスパ。①制度②前年度比予算の部分で2点とろう！制度については、原則と例外をおさえるのが大事。(例：前年度の予算を次年度にも引き継げるか？など)前年度比予算については、「傾向」をつかむことを意識していこう(例：歳入と歳出の大体の規模感。何兆円？？防衛費、社会保障関連は増加、教育は減少？？などなど)しっかりテキストに載っている資料をみて雰囲気をつかめば大丈夫。

(5) 民法...《目標：1点》...(法学部出身者向け)特に対策なし。大学の講義を聞いていればおかしいと思う部分が必ずあるはず。特に登場人物の中で、誰が最も手厚い権利保護をうけるべきかという視点は大事。詐欺や脅迫によって意思表示をした(させられた)場合は、落ち度ってないよね、善意の第三者にも対抗できて当然だよね、みたいなある種の「常識力」があれば一問くらいはとれると思う。初学者の場合は、日評ベーシックシリーズを使うと良い。かなり簡潔にまとめられていて、入門という感じ。ただ一から始めるほどコスパがよいと言われると全然そうではない。あくまで既修者むけの得点術と思う。

Ⅲ. 二次試験勉強法

<総論>

・まずは択一を固めよう！

年内は、択一对策で基礎的な人名や理論を暗記していきましょう。論文のテーマは、問題文自体が年々長くなってきており(特に政治学)、出題者側から「このテーマで」「この論点」について述べてね、という導入がなされている場合が多いです。出題者が何について触れてほしいのかをしっかりと理解し、その期待に応えるためには、やはり事前に択一の知識で基礎を固めておく必要があります。

・黄金サイクルを身に着ける(頻出テーマ・論点の把握⇒答練⇒知識の補完⇒再答練)

やみくもに答練を行うのではなく、まずは記述講義を視聴し、出題範囲・頻出論点をおさえることから始めよう。答案を作成・提出したのち、講師の方から添削された答案が返ってきたら、暗記事項の漏れや文章の整合性をチェックしましょう。この「不足知識のメンテナンス」作業をどれだけ多くできるかが、論文対策の本筋と言っても過言ではないです。インプットとアウトプットのサイクルをできるだけ多く回していこう。初めのうちは時間を気にしなくても大丈夫。一旦時間は無制限で、自力で論点や構成を整理しながら一枚の答案を完成させる感覚をしっかりと身に付けていきましょう。

<科目別>

(1) 政治学

択一に比べて出題範囲が限定されるため、初学者でも選択しやすい科目です。議会制度や民主主義など、頻出テーマの用語説明を自分の言葉でまとめて暗記すると、本番も焦らずに書くことができます。ここでも、「出題者が解答者に何を求めているのか」という点にしっかり想いを馳せてほしいと思います。

頻出テーマがあるのと同じように、頻出の論点があります。講義を見ながらまずはインプット、答練でアウトプット、不足している知識をさらにメンテナンス、そしてもう一度アウトプット。年明けから二次試験直前にかけては、この黄金サイクルを目指してほしいと思います。ヨシダは一次試験終了からこのサイクルが回り始めたことを記憶しています。

(2) 国際関係A・B

ABの違いを簡単に説明すると、与えられたテーマ(主張)に対して、従来の国際政治における理論をもとにその是非を論じていくのが国際関係A、与えられた英文(原文)を読んでテーマを捉え、主張を捉え、同じく理論を用いて解答を作成するのが国際関係Bです。

学者の理論は、現代の国際社会を捉えるための「大枠」であり、そのフレームワークが妥当であると主張するためには、過去の世界史の流れとそこに登場するアクター(国家、国際機関など)の動きといった「中身」を正確に知っていなければなりません。専門択一の欄で①理論・概念②歴史の流れ③国際機関・組織に関する暗記と理解が、独立のものではなく相互に補完しあうものだと言ったのはこれが理由です。論文対策を効率良く進めていくためにも、この点は択一对策の段階から意識していただければと思います。

〈LA吉田の勉強スケジュール〉

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
12月第1～4週	<u>数的処理</u>: 毎朝8:30～10:30 ・判断推理→毎日3～5問 ・資料解釈→1問15分×2で演習。 それ以外の分野は手を付けず <u>文章理解</u>: 特になし <u>知識科目</u>: ①日本思想②西洋思想③日本近代史④世界史を深夜にTAC講義とYoutubeで勉強	<u>必須科目</u> : 政治学と国際関係の受講を年内までに終わらせる。演習は年明けから。 ①政治学 : 人物、理論、概念を覚える。別のノートを用意して書きながら覚える。 ②国際関係 : 政治理論、冷戦・軍縮史、国際機関の機能をまずは覚える。 <u>選択科目+憲法</u> : まさかの“ノータッチ”	なし
反省点	早い段階から分野を絞りすぎていた感は否めない。計算で解ける問題はもう少し準備しておけばよかった。	年内に憲法も受けた方がよかったが、ゼミや説明会などでなかなか時間が作れず。でもしーなし。	なし

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
1月	数的処理は12月の内容にくわえて、確立と場合の数を解き始めた。 知識科目は、日本近代史と東洋西洋思想史を専門の息抜き程度に。	お正月から憲法と国際法の受講をスタート。1月中旬にとりあえず受講だけ終了。 政治学と国際関係は演習 行政学は1月末から受講。 財政学は2月から受講。	政治学と国際関係論の論述を2回ずつくらい書いて、添削に出す。

反省点	基礎能力の反省は上に同じ。専門択一については、急いで受講した科目が多く、暗記や復習の丁寧さに欠けた部分は否めない。でもそれでいい。不安な部分は繰り返し視聴して覚えよう	時間がなくて、添削から返ってきた内容をあまり確認していなかった。	

【政治・国際区分編②】

(LA高崎文責、超短期集中型編)

I. 必須科目勉強法

II. 選択科目勉強法

III. 二次試験勉強法

講義内容をその場で覚える勢いで集中して受講し、過去問の問題演習を通してとにかく暗記しましょう。時間が全くなかったので、TACテキスト以外を活用したことはありません。

自分の置かれている状況や学部・得意なことなどで、勉強すべき科目は時間配分は変わってきます。私の当時の状況は以下の通りだったのでご参考にして読み進めてください。

- ①勉強開始が、3年11月終わり～12月はじめ(一次試験は4年4月上旬)
- ②法学部出身で、法曹を目指してた時期もあったぐらい真面目に法律を勉強していた
- ③国際法のサークルに入っていたため、国際法の基本判例・基本的な思考は頭に入っていた
- ④政治学・国際関係は全くの初学

ちなみに実際の点数は、政治学8/10点、国際関係8/10点、憲法3/5点、択一選択科目9/15点です。

大体の目標点数を目安として書いたので参考にしてみてください！！

I. 専門択一必須科目勉強法

<必須科目全体>

(1)政治学(目標点数8/10点)

講義を1.4倍速(自分がメモを取れる最速の速さ)で受講し、先生が強調した内容をテキストに書き込みましょう。テキストに出てくる人物とその思想・提出した概念を対比させながら講義を聞きましょう。人物名については正確な人名というより名前の雰囲気覚え、それよりも思想や概念を詳しく暗記していました。

(3年12月中)

↓

過去問を使って問題演習しましょう。私は過去問を利用して暗記するようにしていました！(暗記のフェーズはあえて削りました)問題演習する際は、正解の選択肢を選ぶだけでなく、間違えの選択肢の間違ってしている箇所を特定した上で回答を確認しましょう。問題演習をして、間違え選択肢の間違ってしている箇所が特定しきれなかった問題については、該当分野のテキストを読んで知識を再確認しましょう。テキストを読む際は、該当分野の前後も読んで暗記を頑張りましよ

う！！

(3年1月～3月)

↓

(時間があつたら)間違えた問題のみを抽出して、再度解きましょう。全く解けないような場合は、テキストも再確認しましょう。(LA高崎はここまで行きつけなかったです...)

◎模試について◎

模試は、自身のペースメーカーとして活用しましょう。短期の勉強期間の場合は、自分がしっかり勉強した分は点数をとれるようにするなど、模試ごとに目標を決めるとモチベーション高く頑張れます。

(2)国際関係(目標点数8／10点)

講義を1.4倍速で受講し、先生が強調した内容をテキストに書き込みましょう。

(3年12月)

↓

＝暗記＝

理論(リアリズム、リベラリズムとは何か、国際政治の3つのレベルなど)についての暗記と、世界史的内容で暗記を変えていました。理論については、言葉を覚えるだけでなく、他人に説明できるよう深く理解するようにしました。世界史的内容については、年代ごとに何が起こっていたのか、ある出来事の契機になっていた出来事は何であるのかを強く意識して暗記しました。こうすると、ドボンの選択肢を選ばなくなるのである程度の得点が期待できます。白紙に年表を書き出したりして、手を動かしながら暗記していました。

＝問題演習＝

過去問を使って演習していました。様々な角度から出題されるので、量をこなすことを意識して、間違えた問題だけを確認して暗記をし直していました。一つ一つの選択肢において、細かい知識(TACの教科書に載っていないような知識)について聞かれる場合もあるのでその問題については潔くあきらめ、取りこぼしてはいけない問題を確実にとれるようにしていました。

(3年1月から3月)

↓

(時間があつたら)間違えた問題のみを抽出して、再度解きましょう。全く解けないような場合は、テキストも再確認しましょう。(LA高崎はここまで行きつけなかったです...)

(3)憲法(目標点数3～4／5点)

必須科目の中でも比較区的点数の取りやすい科目です。まず、その判例が合憲判断をしたのか違憲判断をしたのかを暗記しましょう。

実際の問題では、判例の内容について詳しく問われるので、こういった理由付けで判断をしたのかを正確に暗記しましょう。

(法学部で真面目に法律を勉強した人向け:LA高崎は、時間がなさ過ぎたことを理由に、問題演習は一切しませんでした。解答を読みこみ、判例の内容の中で、どこが聞かれやすいかどのような文言をひっかけとして用いるのかを意識しながら目で暗記していました)

Ⅱ. 専門択一選択科目勉強法

<選択科目全体>

1次の専門択一40問中15問が選択科目です。行政学5問、行政法5問、民法3問、国際法5

問、国際事情3問、財政学3問、経済学3問、経済政策3問の30問の中から好きな組み合わせで15問選択して解答します。一科目選んだらその科目の問題を全て解答しなければならないわけではなく、例えば行政学を3問だけ答えるといったことも可能です。

国際事情と財政学は全員選択すべき科目であると言えます。しかし行政学、国際法、行政法の中から何を選ぶかはそれぞれの相性次第だと思います。

<勉強を始める時期>

圧倒的に、必須科目を優先すべきです。選択科目0点でもいいから、必須科目を9割程度とれるような勉強をするべきだと感じます。LA高崎は、試験1か月前ぐらいまでほとんど勉強していませんでした。

<各科目勉強法>

＝全員におすすめしたい科目＝

(1) 国際事情(目標点数3／3点)

英語の時事問題という認識です。(人によっては)全く勉強しなくても、満点を取れます。模試や過去問を使って、まずは問題を確認して解いてみましょう。

講義自体も1回だけしかなく、神コスパです。普段の生活の中で意識してニュースを見て情報収集したり、今年の有名スピーチやホットピックの英文記事に目を通して各自備えましょう。

(2) 財政学(目標点数1～2／3点)

理論については、暗記科目です。(人によっては)全く勉強しなくても点数がとれます。

模試や過去問で、点数がすでにとれるあるいは少しの勉強で点が取れそうということであれば、財政学のテキストで予算等を暗記しましょう。

＝個人の好みにお任せ科目＝(目標点数5点以上、基礎能力試験との兼ね合いです)

(3) 国際法

上記憲法と全く同じ勉強方法で学習していました。国際法は、頻出範囲が限られているので、時間がない方は頻出判例・頻出ひっかけ方法を中心に勉強しましょう。

国際法に触れた経験がある人だと取り組みやすいのではないのでしょうか。

(4) 行政学

政治学でも登場した人が再登場したりするので勉強しやすい科目になります。近年問題の難易度が易化しているとのことなので、時間が少しでもあれば、ぜひ取り組むべき科目です。勉強方法は、政治学と同様でよいです。

(LA高崎は、講義3回分ぐらいを受講して息絶えました...)

その他の専門択一選択科目については一切勉強していません。時間がない方は、政治学・国際関係・(憲法)に全力を注ぎ、時間が余ったりほかの科目の勉強もしたくなったら、点数が取りやすい科目を中心に学習しましょう。

試験本番は、必須科目で点数をとれるように全力を尽くしましょう。選択科目は、あまり勉強していない以上高得点は潔くあきらめ、本番で取れる問題を貪欲に探しましょう。実際、LA高崎は数学IAの知識で解けそうだった経済系の科目に初めて取り組み、2点取りました！

Ⅲ. 二次試験勉強法

<総論>

勉強開始が遅かったので、一次試験終了までは、二次試験の勉強をほとんどしていなかったです。とにかく一次試験の勉強(暗記)を頑張っていました。

ただ、記述の模試は受験したことがあり、模試の添削結果を見て、知識さえ身に着ければ文章化することは問題ないという判断をしていました。文章化する特訓が必要かどうかは人によるため、模試や答練などを活用して、自分にどの勉強が足りないかを見極めることが大切です！！

＜科目別＞

(1)政治学

択一に比べて出題範囲が限定されるため、初学者でも選択しやすい科目です。頻出分野を優先するなど、分野ごとに勉強量に傾斜をつけて学習することで効率よく勉強できるようにしていました。具体的には、過去10年分の問題の草案を何もみないで書いていました。解答例と見比べて、どこに記載が足りないのか、記載できなかった理由は何なのかを徹底的に考え足りない知識をテキストと反復して埋めていました。

(2)国際関係A・B

政治学同様、出題範囲が限定されます。理論を説明したうえで、それに当てはまるor相反する実際の歴史的出来事で補強するパターンが多いです。これも、政治学と同様に過去問10年分を活用して勉強しましょう。

また、国際関係は政治学と異なり、過去問から類題が出題されるケースは少ないですが、過去問演習によって事実の因果関係や理論が理解しやすくなります。単純暗記ではなく、歴史の流れを意識して理論を抑えることをオススメします！紙に書き出すと歴史の流れがより頭に入りやすいです。

国際関係Bは、英文での出題になりますが、「和約して要約→理論の説明と当てはめ」という流れが一般的なので、国際関係Aと対策法を変える必要はないと思います。キーワードの英訳を覚えると、本番で問題が解きやすいと思います。

(3)公共政策A・B

公共政策Aは、特別な知識がなくても解ける問題であることが多いです。政治学・国際関係ABで、論述できそうになかったときの保険として使うべきだと感じます。

少し専門的な総合論文だと思っていたいただければ大丈夫です。特別な勉強は必要ありませんが、正解がないからこそ、自分の点数を予測しにくいと思います。

◎模試◎

自身のペースを測る上で必須です。自分に何が足りないのか等を適切に測れます。さらに、模試の問題はある意味出題予想問題でもあります。

どんなに勉強が足りていなくても、忙しくても、必ず受験するようにしましょう。省庁の人事個別面談と同じぐらい大事です。

＜LA高崎の勉強スケジュール＞

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
12月第1週	なし	政治学・国際関係の動画視聴を終えることを目標に頑張る(徹夜覚悟)	なし。専門記述は1次試験終了後に勉強開始。

12月第2週	なし		
12月第3週	・資料解釈のレジュメを読み、問題を2問解く ・基礎能力模試を受ける(自分の立ち位置把握)		
12月第4週	・資料解釈のレジュメを読み、問題を2問程度解く		
良かった点	・年内に数的処理・文章理解の点数の目安を立てられた点		
反省点	・政治学・国際関係の動画視聴を終えたのが結局年明けになってしまった点		

時期	基礎能力	専門択一	専門記述
1月第1週	なし	政治学・国際関係の動画視聴を終える	なし。専門記述は1次試験終了後に勉強開始。
1月第2週			
1月第3週			
1月第4週			
良かった点		動画視聴を終えた点	
反省点	なし		

【教養区分編】

～2次試験後の身の振り方～

1.合格発表まで

教養区分お疲れ様でした！この数か月間、緊張感のある時間を過ごしてきたと思います。存分に自分を労わってあげてください。また、この期間は一番まとまった時間がとれる時期です。合格発表後からは官庁訪問対策や民間就活、または春試験や併願先の勉強などが本格的にスタートします。今の時期は、志望省庁の説明会や座談会があれば参加しつつも、ぜひ好きなことをやりましょう！

2.合格発表後

【晴れて合格された方】

民間就活や官庁訪問を見据えて、対策を徐々に始めましょう。民間就活をされる方は、12月後半に申し込み締切の冬期インターンシップも沢山あるので申し込んでみると良いと思います。この時期に自己分析やES提出を経験しておくことは重要だと思いますし、民間のインターンシップは公務との違いや自分の興味・適性を確認する良い機会となると思います。官庁訪問対策に関しては、情報収集を進めていくと良いと思います。政策研究を本格化するにはまだ早いと思われるので、どんなスケジュール感で対策を進めるべきか、どのように説明会や省庁イベントを利用すべきかなどを身近な講師や内定者(LA含む)などに聞いてみましょう。

【残念ながら不合格となってしまった方】

まずは美味しいごはんを食べて、お風呂に入り、ゆっくり寝て自分を労わりましょう。教養区分対策で培った力は、春試験や官庁訪問にて遺憾なく発揮されるはずです。また、どこが点数とれていないのかを分析しましょう。対策すれば十分に高得点を目指せます。春試験対策について不安のある方は、ぜひ担任カウンセリングや内定者カウンセリングを活用して、今後のスケジュール感を考えておきましょう。試験対策だけでなく、省庁イベントに参加しながら官庁訪問対策も行いつつ、希望省庁の内々定をつかみ取りましょう！

【これまでいただいた質問への回答】

Q. この時期の勉強スケジュールについて教えてください

A. 今回のレジュメをご参照ください！

Q. 政策論文はどのように対策すべきですか

A. まずはTACの講義を視聴して答練を提出しましょう。時間配分や資料の活用法をあらかじめ決めておくと本番焦らずに済みます。3月の記述模試までに、一度答練を行い、感覚を掴んでおきましょう。

また、政策論文は資料を上手くまとめて、論理的な文章を作成できれば、足切り点を食らうことはほぼありません。むしろ奇を衒った主張や詳しすぎる政策論はあまり好まれないので、「120分でいかに分かりやすい文章を書けるか」を意識してください。年明けに合格者復元答案集が配布されるので、高得点の答案を参考にして、文章構成や接続詞の使い方などを参考にしてみましょう。

Q. 職員訪問はすべきでしょうか

A. 各省庁が実施する職員訪問は、ぜひ行いましょう。採用ホームページに記載がなくても、人事の方に直接依頼をすると引き受けてくださる場合があります。官庁訪問での原課面接の練習にもなるので、積極的に行うことをおすすめします。

Q. 官庁訪問体験談をお聞きする機会がありますか

A. 予定では、来年の1月、2月のHRに実施する予定です。できるかぎり受講生の方々が志望する省庁の内定者をお呼びしたいと考えておりますので、**HR最後にご案内するアンケート**にて、現段階での志望省庁のご記入をお願いします。

Q. 12月以降のHRでは教養区分向けのお話は少なくなりますか

A. 試験対策の話は春試験向けのものとなりますが、官庁訪問については、全区分受験者に向けて詳しくお話しさせていただく予定です。

Q. 省庁説明会で意識していたことはありますか

A. 説明会の内容によって異なりますが、基本的には、その政策を行う意義やそもそもその政策を（民間や自治体ではなく）国として行うべき理由などを明確にすることを意識していました。また、行動面では、積極的に質疑応答に参加したり、それでも分からないこと、質問しきれなかったことは説明会后に採用担当者に話を聞くなどしていました。

Q. 国総以外の併願はどのようにしていましたか

A. 来月のHRにて、民間就活や公務員併願のお話を詳しくお話したいと思います。今年のLAは、民間就活を行っていた者が3人、他職種の公務員を併願していた者が1人います（冒頭の自己紹介参照）。今すぐに話が聞きたいという方は、内定者カウンセリングへ！

【今後の告知】

★LAカウンセリング★

内定者アドバイザー(LA)は皆様のご相談をお待ちしています！

在席表は、マイページから別紙・マイページ・メールニュースを参照ください。

深刻な相談、息抜き、愚痴、何でも結構です！

★12月ホームルーム★

「国家総合職合格への道～We are never alone～」

内容：模試の活用法、民間就活・併願、年末年始の過ごし方

12/13(水) 16:30～17:30 新宿校

12/15(金) 18:30～19:30 オンライン

予約不要、入退室自由です！

本日のアンケートにご協力ください！

